（雜報掲載可）　（本號六面）　明治廿三年九月四日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日も休刊無し

第一千七百六十七號　木曜日
明治廿三年九月四日
舊曆庚寅七月二十日（戊子）
月出午前五時十六分　入午後六時二十四分
月出午後九時二十九分　入午前八時四十二分
（西曆一千八百九十年）

石版畫の大附錄

當に第三回内國勧業博覽會の出品百種を撰み廣く縱覽者の投票を募りたるに美術品中の諸版類にて授賞の多數を得て時事新報金牌を贈る事となりたるは府下京橋區宗十郎町信陽堂の出品したる婦人奏樂の圖あり由て本社は信陽堂に託し此圖を美麗なる石版刷に為し新報一頁大の附錄として來る五日の新報に添ふべし

當日の新報は臨時に印刷の高を增加するを以て廣告文掲載相成度方は兩三日前に御申込み被下度候

定期購讀者には附錄の代價を申受けざるも當日の新報一枚實は一部の定價を金四錢と定む

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セス其代價送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

時事新報

元老院議官に所望あり

官尊民卑の勢は今の日本の通弊なれども商工實業の部分に至りて特に甚しきを極むるは何ぞや他なし此社會中に智德の分量少なくして他と相對峙するに當り實際品格の卑しきが故なり凡そ何れの國にても社會の人品を區別すれば上中下の三等となり更に其中等を區別すれば中の上、中の下の二種となる可し而して此中等二種の人物は概して學識經驗に富み能智識の上より云へば國中最高等に位するが故に此人物の輻輳して其心力を盡さんとする事業は自然名譽と品格とを增して國事の榮譽たるを常とす即ち西洋商業國中、彼の英米二國の如き中等社會の人々は重に商工業に從事して中の上の人物は銀行頭取弁に役員、商館の主人、會社の重役等を勤め又中の下の人物は諸商館の手代書記弁に諸工場の取締役等の職に在るが故に商工の事は人物と共に名譽を生じて其位地亦隨て高く其社會に氣力ありて何となく奥ゆかしく見ゆるとなれども我日本國の中等人種即ち士族流の人々は重に政治の一方に傾し爭ふて其門に群集するが故に政治社會の明なる程に商工社會は闇なる者多けれども所謂古習性を成して漫に商工社會を卑下するか或は實行の勇氣なく臆病なる大將が遥か隔りたる隙後より進め〳〵の軍配を振ふと一般、遠方に在りて徒に大言名策を述べ立つるに止まるか或は一時政治上の失望等にて身を商工界に投ずる者あるも越鳥巢南枝、胡馬嘶北風の本文に違はず商工社會は一時假館休息の地として風雲再び政治上より鮮び下れば身を飜して復た之に乘り移り忽ち元の政治界に歸參する等眞實商工社會の重きを任じて終始此社會の患臣たる者、殆んど皆無なりと云ふも可からん左れば元老院議官諸氏の如き位地名望ある者が近々廢院の懷會を以て身を江湖の廣きに放たんとするみな幸なれ西洋有爲の士人輩が自聖蒼顔、世事に勉めて老の將に至らんとするを知らざるは諸氏の夙に見聞する所にして諸氏が知命前後の身にて俄に樂隱居の群に入り餌を釣て樂を事ふの老蒼蒼たるを甘んじざるは我輩の第一信ずる所なれば我輩は諸氏が平生政治上に爲したる事業の手を今より更に商工界に移して一生の恩出に餘勇を此社會に示し其名譽の重きと其に商工全體の重きを致さんこと今日の懷會を以て一常諸氏に懇望して已まざるなりの次第なりしと雖ども今や商工立國は世界一般の大勢にして我日本國の如きも亦之の大勢中に運動する者なるとすれば商工社會に人物を得て隨て其品格を增し天下一般の人をして重きを此社會に置かしむると實に當務の急なる可し即ち我輩が近年來學者政治家技藝家に論ずる機會に乘じて進んで我商工界に入り身を利し兼ねて國を利するの勇あかる可らず云々とて勸誘百端敢て自から倦厭せざる所以にして今や彼の元老院議官諸氏に向て更に此勸誘說を呈するみとを得るに至りたるは我輩が商工社會の爲めに窃に就賀する所なり聞く所に據れば政府は來る十月頃迄に元老院を廢して議官中の一部分は勅撰貴族院議員となし他は愚給令に因り夫れ〳〵其恩給を與へて閑地に就かしむる都合なりと云へり蓋し議官諸氏の如き所謂功成り名遂げたる者にして昔し封建の時代ならば身退て樂隱居に安んず可き筈なれども今の文明世界にては知命前後の士人をして故に早衰せしむるを愛せず政治上の范蠡が五湖に其餘力を伸べて宛然陶朱公たらんとすれば商工社會は之を容れて共に其力に依る可きや必せり且つ議官諸氏の如き政治社會の元老として人に重んぜられたる者にして智慮に富み世故に老ゆるのみあらず多少の財產信用を有する者さへ多かる可きが故に一朝無人の商工界に入りて事に當らんとするみとあれば馬伏波果して老たりと雖ども鞍に據りて顧盼、尚その餘勇を示すに足る可し斯くて政治社會に於て相當の位地を得たる者が退て商工社會に入り其人物の重きに因りて此社會の重きを加ふるに至らば事實商工を獨立して名譽品格を增すと同時に其繁昌の勢を助けて國家富强の長計を立つるみとを得べし抑も今の政治家中には經濟富國を喋々する者多けれども所謂古習性を成して漫に商工社會を卑下するか或は實行の勇氣なく臆病なる大將が遥か隔りたる隙後より進め〳〵の軍配を振ふと一般、遠方に在りて徒に大言名策を述べ立つるに止まるか或は一時政治上の失望等にて身を商工界に投ずる者あるも越鳥巢南枝、胡馬嘶北風の本文に違はず商工社會は一時假館休息の地として風雲再び政治上より鮮び下れば身を飜して復た之に乘り移り忽ち元の政治界に歸參する等眞實商工社會の重きを任じて終始此社會の患臣たる者、殆んど皆無なりと云ふも可からん左れば元老院議官諸氏の如き位地名望ある者が近々廢院の懷會を以て身を江湖の廣きに放たんとするみと幸なれ西洋有爲の士人輩が自聖蒼顔、世事に勉めて老の將に至らんとするを知らざるは諸氏の夙に見聞する所にして諸氏が知命前後の身にて俄に樂隱居の群に入り餌を釣て樂を事ふの老蒼蒼たるを甘んじざるは我輩の第一信ずる所なれば我輩は諸氏が平生政治上に爲したる事業の手を今より更に商工界に移して一生の恩出に餘勇を此社會に示し其名譽の重きと其に商工全體の重きを致さんこと今日の懷會を以て一常諸氏に懇望して已まざるなり

雜報

左の一篇は慶應義塾大學部教授米國文學博士ヲスカム氏の寄贈に係るものなり譯して讀者の閲覽に供す

日本初見の感想（第一）

過去二十餘年の前期日本は次第に進歩あく西洋諸國との關係を增しぬ東洋の孤島にて平和に慣れ果てし永き眠りの夢覺めて古來の習慣を打破り新奇の事を行ふたる其有樣の絶類無雙、以て驚問の驚嘆を博するに足るべし以て此上の進歩を想ふに足るべし去りおがら日本帝國自身の方にては既に得たる異常の結果も其國進歩論者の滿足を買ふとは出來得ざるが如し然るに一方より外國人の眼を以て觀れば進歩の普及迅速夢にも斯程とは思はざりしあり併し其進歩論者も外人も改良の途に横はる障碍は何程なりや斯る仕事の實行は凡そ幾多の歲月を要すべきやと事細に計へ立てざるは何れも誤れり制度文物及び社會の組織は自然の結果より成るものにして人爲一片の命令之を能く作るものにはあらず人爲一片の命令之を能く廢するものにはあらず又之を能く變ずるものにはあらず其の成るは徐々に成れるなり其變ずるも亦徐々に變ぜざるべからず若し是れを變ずるみと能く二十三十の年限に於て成就し得なば其進歩の早き寧ろ意外と云ふべく決して遲々たりと評す可からず

東西遙に洋を隔つる國にありては雙方の風俗、習慣、工業の仕振、社會組織の問題など互に合點するみと容易ならず日本の西洋に知らるゝは重に美術工藝の點にあり風俗習慣等の事を知る者は僅少なる外交家僅少なる貿易商及び貴族三昧に名所巡りする僅少なる富豪の外には殆んど是れ無し日本人が歐羅巴、亞米利加の事を知る亦恐くは是と同樣ならん去れば日本を敬し日本を愛し明け暮れ日本の富强を願る者にして遙々故郷亞米利加より來て此地に暫く世を渡る一人の男が「日本初見の感想」と題して東西洋文明の一端を異にせる其趣を比較しなば日本人にも米人にも多少の面白味はあらんと信ず

余が日本に來て先づ驚く所は諸事萬端殆んど全く人の腕先きの力に由るみと是れなり波止場を上り見れば數多の車扣へ居り挽く者は馬にあらずして人なり是れに打乘り町の方へと走らすれば車き石、材木など車に載せて向ふより曳きもて來るも亦人あり行き〳〵て唯ある市街に出づれば此處には家屋の普請中なるものあり見れば數多の人足てんでに繩を肩に掛け巨大なる材木を樓へ曳き上げ居り川の沿岸を過ぎ行き見れば長き棒の頭に杓子を附けて河底の泥を淡へ居れり亞米利加は是と事變り舟々の車あるも曳くものは馬なり雜織用の石材は蒸汽力或は馬力に依て之を上ぐ泥淡へには必ず淡渫器を用ふ總て物事斯の如し一々茲に例を擧げねども兩國腕先きの力を用ふるみとの多少を證明するには事足れり

抑如何なる理由ありて二國の間に斯る相違出來せるや偶然か深き譯あるみとか勿論譯ありてなり因れば之を茲に擧もあるあれ其譯柄に左の三ツのものに外ならざるべし第一仕事の際限は狹きに仕事に就かんとする人は多く隨て不器用なる勞働者は極めて下等なる職務をも辭せざるに至れるなり競爭者多きときは賃錢を云ひ居る譯にはゆかず何なりとも働いて命を繋ぐを得ざるより僅かの賃錢賃として甘んじて下等の勞働を爲すゆゑ資本主なりとて喜んで彼等を雇ひ市府村落には幾百萬の第三兩國社會の感情が國を爲したる源を保護と目的とも極めて近代の事にして歴史以前の時代は自然昔の形を全く除き去り得ざる殆んど盡くるみと樣となりたるなり日人の心に染み渡りたる主義を代表せるものなりしにもせよ其後の勞働社會に昔の面影に付けて起る障碍はどの辛抱强き盡力とり外はおかるべし（後）

○埼玉縣下の出水

し堤防破壞の箇所も條地先の切所は凡そ六七尺もある濁水さ六七尺もある濁水將に一新利根を現出し同縣より去月卅日附の箇所は左の如しと

郡名	村名
爲川	賀茂郡神保
同川	同郡同村大字
利根川	同郡玉郡
同川	埼玉郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
同川	同郡
入間川	高麗郡名
高麗川	同郡柏原
高麗川	入間郡坂戸

○神戸檢疫所　馬關檢疫所に置き兵庫檢疫所に第一休息所を開くに付て檢疫を以て一常諸氏に懇望して已まざるなり